

【春子の夜着^{よぎ}】

新しい年がスタートしました。身体にこたえる寒さが続いています。暦の上では大寒も過ぎ少しずつ日暮れが遅くなっているのを実感すると、冬の終わりが待ち遠しく感じる毎日です。

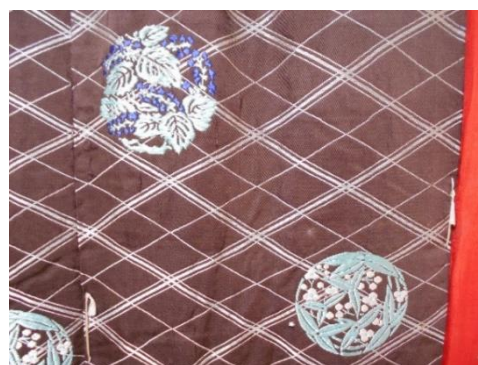
今月の推しの“イッピン”はそんな寒さを吹き飛ばす「春子の夜着」をご紹介します。

「夜着」とは、着物のような形をした大形の寝具です。掛け布団の一種で袖と襟がついており、綿が厚く入っているので暖かいのが特徴です。袖に手を通さず肩を包み込むような形で体にかけて、長い襟によって隙間をつくらず暖かく寝ることができます。

平安朝末期には直垂^{ひたたれ}ともいい、夜着という名前は室町時代にできました。桃山時代の書物にも登場していますが、一般的になったのは江戸時代になってからです。もともと上流階級が使い始め、その後庶民にも広まっていきました。夜中^{かわや}に 厠 に立つ時などには、寒さを防ぐために袖を通して上着として着て行ったそうです。

春子の夜着の寸法は、裾ふき 39 c m、袖口ふき 14 c m、袖口 64 c m、袖巾 46 c m、丈が 195 c m。生地には絹地の刺繍が施され、桐そして笹の葉に小花のような取り合わせの紋様もあしらわれています。岩手の厳しい寒さを凌いだ春子の様子が目に浮かびます。

こちらの夜着も先月ご紹介した長火鉢と同様に当館旧宅にて常時展示しております。ぜひ間近で綿の厚みや生地の質感、細やかな刺繍の美しさなどをご堪能ください。



参考:「暮らしのほとり舎『季節の言葉「夜着」』、
「きものカルチャー研究所『302. 夜着だたみ』、
「松坂屋史料室企画展『Vol. 61 夜着－江戸時代の寝具』、
「服飾辞典（文化出版局）」